

歴史と伝統ある古河市を訪ねて

九月五日(火)、「小野川と佐原の町並みを考える会」の視察研修に参加し、古河を訪れた。

小雨の中、観光ボランティア協会会長の増田さんの案内で、最初の古河城主小笠原秀政が岡崎三郎信康の菩提のために開基した隆岩寺、徳川三代に仕えた土井利勝の開いた正定寺、街角美術館、石蔵が大正九年の建築で、平成十年に国の登録文化財になった日本での初めての篆刻美術館、古河城内の文

インを頼んでいた。文学館のレストランでのイタリア料理の昼食は参加者一同大満足の様子で話もはずんでいた。

午後には歴史博物館と鷹見泉石記念館を見学。いずれの文化施設も良く整備され、館の方々の対応も良くとても参考になった。特に印象に残ったのは歴史博物館、五代続いた古河公方足利氏の所在地であり、幕府を支えた土井利勝の城下町であっただけに歴史の奥行き

の深さが感じられた。展示内容も豊かで、もっと時間をかけ歩いてみたいまちは。増田さんの話では古い町並みの多くがバブル期に取り壊されたのが残念だった。



篆刻美術館前で増田氏の説明を聞く

念であり、残っている物も維持が難しいとのことであった。古河とは異なるが歴史的町並みを観光スポットに持った佐原として、町並みの維持と充実のために、

庫蔵と乾蔵を移築した坂長本店(酒造店)、文学館の順に見学した。文学館では一色悦子絵本原画展を開催しており、たまたまご本人が居合わせたので、女性の多くはサ

行政と住民が同じ視点に立って努力していく必要があると感じた。(ボランティアの会 永井記)



町並みにとけこむ古河文学館

行政と住民が同じ視点に立って努力していく必要があると感じた。(ボランティアの会 永井記)

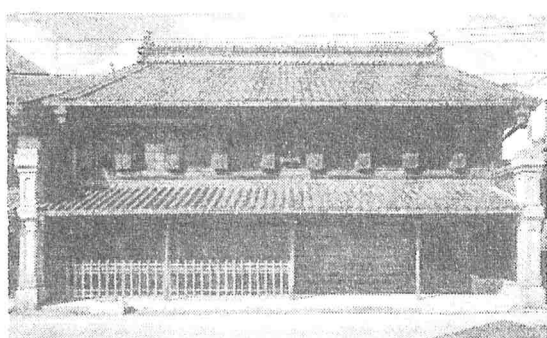
重伝建地区選定の先進地として

富山県高岡市「町並みシンポジウム」に招聘される

八月十九日、高岡市において、伝統的建造物群保存地区指定記念の町並みシンポジウムが開催された。パネラーとして「町並みを考える会」が招かれ、加瀬代表世話人をはじめ、大高・佐藤両副代表、佐藤総務委員長の四名が出席した。

地元高岡市と並んで佐原市から加瀬代表が「小野川と佐原の町並みを考える会」の結成から活動の経緯を発表。特に重伝建選定に果たした役割の報告では、住民参加の保存運動の在り方に多くの質問が集中し、共感を呼びました。

夜は、市民千人以上が俳優や踊り手として登場する、野外音楽劇



重要文化財の土蔵造の商家

「越中万葉夢幻譚」に招待され、夏の一夜を万葉にタイムスリップして楽しませました。

視察研修アンケートから一回回収率80%

- ・ 今回の視察研修の参加者の感想をまとめましたので、報告します。
- 一 印象に残った場所や人物
 - ・ 場所が多かったのは歴史博物館。次に清々しい石畳の舗道
 - ・ その他歴史あるお寺、町並みにマッチした建物、美術館、文学館があげられました。
 - ・ 人物では土井利勝です。葵三代で活躍中ということもあるようです。泉石やガイドの増田さんの名もありました。
- 二 参考になったこと
 - ・ 古河の歴史や活躍した人物について良くわかった。
- 三 その他
 - ・ マイクロは狭かったが、皆の顔が見え、和やかで楽しい時間が共有でき良かった。
 - ・ 夕食も一緒に、会話も弾み更に親睦が深まった。
- 四 「かわら版」と「視察先」について
 - ・ いろいろの意見がありました。大変参考となりました。

今年末には、文化庁の選定を受けて伝統的の前に「重要」が付いて、また一つ仲間の地区が増えることを祝福し、充実した研修視察を終えました。(佐藤総務委 記)



町角れ話
中央案内所へ入ってきた観光客に、小野川、香取街道が走る忠敬橋附近の町並みについて、お江戸見たけりや
佐原へござれ

佐原本町 江戸まさり：と里うたにも唄われたと、往時の賑わいぶりを説明すると、お奈良漬の看板を見た一人の男性がどけて「皆さん、江戸に、おを付けてもよいが、奈良漬に、おを付けてない方がよいですよ。」と

言ったので、みんなでおなかを抱えて大笑い。